



本発表の概要

島根県出雲方言の指示詞・代名詞に関する調査報告

- 代名詞
 - 代名詞の体系
 - 複数接辞のバリエーションと接続制限
- 指示詞
 - 基本的にはコソア体系
 - 応答表現のアゲ・ソゲ

2

本発表の構成

1. 出雲方言の概説
2. 出雲方言の代名詞
3. 出雲方言の指示詞
4. まとめ

3

調査概要

- 主に2地点で調査
 - 出雲市平田町
 - 雲南市木次町



5

調査概要

- 平田・木次での調査結果を中心に報告
- 地域差には適宜言及
- 調査員は以下の4名
 - 友定賢治(県立広島大学名誉教授)
 - 小西いずみ(広島大学)
 - 平子達也(駒澤大学)
 - 野間純平(島根大学)

6

出雲方言の特徴

音声・音韻面の主な特徴

- 中舌母音[i]
 - (例) 寿司[si̥.s̥i] 味噌[miso] 昨日[kʰi̥no:]
- [i]と[e]、[u]と[o]
 - (例) 犬[ɛno] 海[omi] 手ぬぐい[tenegoj]
- [ri, ru, re]の長音化
 - (例) 鳥[to:] 起きる[okʰi:] これ[ko:]

7

出雲方言の音韻体系

- 子音音素(木部2016にもとづく)

		両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂音	無声	p			k	
	有声	b			g	
鼻音	有声	m	n			
	無声		s			h
摩擦音	無声		s			h
	有声		z			
はじき音	有声		r			
破擦音	無声			c		
	有声					
接近音	有声	w				

8

出雲方言の音韻体系

- 母音音素(木部2016にもとづく)

9

出雲方言の音韻体系

- 特殊拍音素
 - 撥音 /N/ [n~m~ŋ~N~Ũ]
 - 促音 /CC/
 - 長音 /VV/

10

1・2人称代名詞

1・2人称代名詞の概要

	単数	複数	
1人称	ora	ora-jaci	
	adaN	adaN-jaci	
	wasi	wasi-jaci	wasi-raci
2人称	omae	omae-jaci	omae-raci
	omae-saN	omae-saN-jaci	
	aNta	aNta-jaci	
	aNta-saN	aNta-saN-jaci	

12

1・2人称代名詞

1・2人称代名詞の概要

- adaNの使用には地域差がある
- 複数形は単数形に複数接辞をつけて表す
- 複数接辞にバリエーションがあり、多少の地域差がある
- 双数と複数の区別なし
- 包括と除外の区別なし

16

3人称代名詞

3人称代名詞の概要

	単数	複数	
3人称	aa	aa-jaci	aa-raci
	aici	aici-jaci	
	ano=si	ano=si-jaci	
	ano=saN		
	ano=mae	ano=mae-jaci	
	kona	kona-jaci	kona-raci

17

3人称代名詞

3人称代名詞の概要

- 物を指す指示代名詞をそのまま使う
- 人を表す指示代名詞
- 指示連体詞+人を表す形式名詞si、saN、mae、moN
- 見下げて使うko(N)na

23

複数接辞について

複数接辞のバリエーション

- 主に-jaci、-raci

地域差や個人差が見られるが
全容は不明

- 1・2人称代名詞には他の形も

(1){ora-ci/ora-Nci} hutaa=de kwa-koi. 【木次】

(私たち2人で食べよう。)

(2){omae-ci/omae-jaci} hutaa=no kasi=da=ga. 【平田】

(お前たち2人の菓子だよ。)

(3)oradaNci kuu=keN omae-ci kuu=da nai=zi. 【平田】

(私たちが食べるから、お前たちは食べるなよ。)

- 「omaeciを丁寧に言うとomaejaci」というコメントも

24

複数接辞について

複数接辞の接続制限

- 無生物にはつきにくい

(4) ano kwasi=wa ano gakuse-jaci=ga kutta=kae. 【平田】

(あの菓子はあの学生たちが食べたのか。)

(5) ano {imo/*imo-jaci}=ga kuite. 【平田】

(あのサツマイモが食べたい。)

(6) aa-raci=ga kuitai. 【平田】

(あれら(様々な種類のもの)が食べたい)

(7) koo-jaci katacikete gose. 【平田】

(これらを片付けてくれ。)

25

複数接辞について

複数接辞の接続制限

- 「誰」にはつくが他の疑問語にはつかない

(8) sono sigoto=wa daa-jaci=ga sii=kai. 【平田】

(その仕事は誰などがするの?)

(9) koN naka=de naN=ga hosi=kane. 【平田】

(この中で何などが欲しいの?)

(10) kora daa-jaci=no kwasi=kane. 【木次】

(これは誰などの菓子なの?)

(11) naN=to naN=ga hosi=kane. 【木次】

(何などが欲しいの?)

26

複数接辞について

- 基本的に有生物には任意でつくが形式名詞だと義務的？
(12) ano {*/si/*saN/*mae} hutaa=ga kutta=kae.
(あの人たち二人が食べたの?)
- 無生物につく条件はさらに調査する必要がある
- 藤原(1981:213)の記述(仁多郡旧馬木村)
接尾辞の「ラチ」が注目される。「オララチ」(おれたち)ともあり、また、「チャワンラチ」(茶碗ラチ)「イシラチ」(石ラチ)「エンピツラチ」(鉛筆ラチ)などともある。

27

出雲方言の指示詞

	コ系	ソ系	ア系	不定
物・人	koo	soo	aa	doo
人	koici	soici	aici	doici
場所	koko	soko	asuko	doko
方向	kocci	socci	acci	docci
連体	kono	sono	ano	dono
属性	kogena	sogena	agena	dogena
様態	koge	soge	age	doge

29

出雲方言の指示詞

指示詞の概要

- コソア体系で、基本的に現代標準日本語と同じ
(13) aa=wa ocikisaN=da=zi. (現場指示)
(あれは月だよ。)
- (14) koo=o mii. (現場指示)
(自分の手元を見せて)これを見ろ。)
- (15) soo=o misjete cosje. (現場指示)
(それを見せてくれ。)

30

出雲方言の指示詞

指示詞の概要

- コソア体系で、基本的に現代標準日本語と同じ
(16) kiNnjo hoN katte joNda=zi. soo=ga gaini jokatta. (文脈指示)
(昨日本を買って読んだよ。それがとてもよかった。)
- (17) kiNnjo omae-saN=ga osiete goita ano hoN moo joNda=zi.
(昨日あなたが教えてくれたあの本、もう読んだよ。)
(文脈指示)

31

出雲方言の指示詞

- koo=wa/soo=waとは異なるとされるka/sa(荻野2016)
(18) {sora/soo=wa/**saa**} ora=ga moN=da=zi.
(それは私のものだよ。)
- (19) **kaa** naN=kane.
(これは何なの。)
- ⇒詳細は未調査
- 現場指示では使いにくいko(N)na
(20) **kona**=ga kutta=kae.
(あいつが食べたのか。)
- 「近称を失って遠称」(広戸1949:7)

32

応答のアゲ・ソゲ

- 指示副詞koge/soge/ageも基本的に同じ
(21) **soge**=da nai. **koge** sii=da=wana.
(そうじゃない。こうするんだよ。)
- (22) **age** suu=da=kaja. siradatta=wa.
(ああするのか。知らなかったよ。)
- 応答表現(「そうだ」相当)ではageとsogeの両方が使用される
(23) A: 雨が降りそうな天気だねえ。
B: **ソゲ**だねえ。
- (24) A: 子供のころ、あそこのおじいさんによく叱られたよねえ。
B: **アゲ**だったねえ。

33

応答のアゲ・ソゲ

- アゲ・ソゲ両方が使われることもある
- 現段階では使い分け規則が不明
- 個人差・地域差もありそう
- ここまでの調査(平田・宍道)と先行研究をもとに仮説を立ててみる

34

応答のアゲ・ソゲ

- 石橋(1992)
「相手の主張に対しては**ソゲ**、一般論に対しては**アゲ**」
(25) A: サミ トキャ ナンノカナネ 炬燵エ アタットーマスワ。
(寒いときは何ということはないに炬燵に当たっていますよ。)
- B-1: **ソゲ** **ソゲ**。年トッテカーワ ソーガ エチバンダケンネ。
(そうそう。年をとってからはそれが一番だからね。)
- B-2: **アゲ** **アゲ**。カゼ フカモンナラ ナカナカ ナオラヘンケン
ネ。(そうそう。風邪をひこうもんならなかなか治らないからね。)
(石橋1992:41-2)
- ⇒B-1は「老人である相手の身になっての**ソゲソゲ**」

35

応答のアゲ・ソゲ

本発表の仮説

- 出雲方言の**アゲ**と**ソゲ**はいずれも相手の発話内容に対する同意を表す応答表現として使用されるが、指示詞のア系とソ系の使い分けにもとづいて、以下のように使い分けられる。

アゲ: 当該の内容が「話し手の領域にもある」ことを表す。具体的には、「当該の情報を相手と共有している」「前から自分もそう考えていた」という場面で使用される。

ソゲ: 当該の内容が「聞き手の領域にある」ことを表す。具体的には、「当該の情報を相手と共有していない」「自分もそう思う」という場面で使用される。

36

応答のアゲ・ソゲ

アゲ: 相手と共有している(≠話し手の領域にもある)情報

- (26) A: 子供のころ、あそこのおじいさんによく叱られたよねえ。
B: **アゲ**だったねえ。 ((24)再掲)
- (27) A: 今年の夏は暑かったよねえ。
B: **アゲ**だったねえ。

ソゲ: 共有していない(≠聞き手の領域にある)情報

- (28) A: また台風が来そうだねえ。
B: (知らなかった) {?**アゲ**/**ソゲ**} かね。
- (29) BはAの坊主頭の姿しか知らない
A: 小さいころは、ずっと髪を伸ばしていたよ。
B: {?**アゲ**/**ソゲ**} だったかね。

37

応答のアゲ・ソゲ

アゲ: 自分もそう考えていた(≠話し手の領域にもある)

ソゲ: 相手の言うとおりでと思う(≠聞き手の領域にある)

- (30) (パンクした自転車のタイヤを二人で見ながら)
A: ここに穴があいているようだねえ。
B: {?**アゲ**/**ソゲ**} だねえ。
- (31) (遠くにいる人を見ながら)
A: あそこにいるのは、太郎さんのようだねえ。
B: {?**アゲナ**/**ソゲナ**} ように見えるねえ。
⇒その場でもたらされた情報には**ソゲ**を使う

38

応答のアゲ・ソゲ

アゲ: 自分もそう考えていた(≠話し手の領域にもある)

ソゲ: 相手の言うとおりでと思う(≠聞き手の領域にある)

- (32) (たくさん積もった雪を見ながら)
A: たくさん積もったねえ。
B: **ソゲ**だねえ。
- (33) (雪がとけた後で)
A: 今年はたくさん積もったねえ。
B: **アゲ**だねえ。
⇒相手への同調には**ソゲ**、話し手が持っていた意見には**アゲ**

39

応答のアゲ・ソゲ

平田と宍道で調査結果が逆になる例

(34) (二人でこたつに入りながら)

A: 冬はこたつに入って、テレビでも見ているのが一番だねえ。

B-1: ソゲだねえ。(平田)

B-2: アゲだねえ。(宍道)

(35) (こたつには入っていない)

A: 冬はこたつに入って、テレビでも見ているのが一番だねえ。

B-1: アゲだねえ。(平田)

B-2: ソゲだねえ。(宍道)

⇒ 解釈次第でどちらにもなる例?

40

応答のアゲ・ソゲ

平田と宍道で調査結果が逆になる例

(36) A: 今の子供は、毎日、塾や習い事で大変だねえ。

B: {アゲアゲ/ソゲソゲ}、かわいそうだねえ。

平田: 他人事としてみればアゲ、孫が大変なのを見ていたらソゲ

宍道: 普通はソゲ、身内のことならアゲ

⇒ 「一般論」の解釈でアゲとするか、「そう思っていた」の解釈でアゲとするか?

41

応答のアゲ・ソゲ

• NHK『全国方言資料』より(現・雲南市大東町)

(37) A: ダドモ マンダ ココン ハーノ モナー イッコー ナーモア
ヤケーネー(だけれども、まだこのあたりの者はいっこう
(共通語のとおりには)なりませんね。)

B: アゲーデ ゴダエヤス。(そうでございます。)

A: ナントモ トレナエナモンデネ。(なんとも(なまりは)取れないものでね。)

B: アゲデ ゴダエヤスケネー。(そうでございますからね。)

42

応答のアゲ・ソゲ

• NHK『全国方言資料』より(現・雲南市大東町)

(38) (Aが買い物から帰ってきた)

A: ナント ユカタ モツテ モドル コタ モドツタガ コーガ ド
ゲナ シナモンダデアー マー コゲナ ヤツダワ(ゆかたを
持って帰ることは帰ったが、これがどんな品物なのやら、ま
あこんな物だよ。)

B: ハー ソゲデスカ。(はあ、そうですか。)

43

応答のアゲ・ソゲ

- ア系とソ系の違いをもとに仮説を立てたが、調査結果が異なる例は他にもある
- 地域差というより個人差？
- 解釈の違いで説明しようと思えばできるが...
- 内省にも限界がある
- 談話を使って本格的に分析する必要がある

44

まとめ

- 出雲方言の代名詞
 - 人称や数の体系は単純
 - 複数接辞のバリエーションや接続する条件はさらなる調査が必要か
- 出雲方言の指示詞
 - 基本的に現代標準日本語と同じコソア体系
 - 応答表現のアゲ・ソゲについては談話を用いた本格的な調査が必要

45

参考文献

- 石橋俊雄(1992)『続 出雲のことば あれこれ 文法的考察』
- 荻野千砂子(2016)「出雲方言の指示詞カ、サに関する報告」木部暢子編『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 出雲方言調査報告書』pp.79-85, 国立国語研究所
- 木部暢子(2016)「出雲方言の音韻」木部暢子編『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 出雲方言調査報告書』pp.7-21, 国立国語研究所
- 広戸惇(1949)『山陰方言の語法—出雲・隠岐・石見・伯耆—』島根新聞社
- 藤原与一(1981)『昭和日本語の方言 第5巻 中国山陰道二要地方言』三弥井書店

46